



色生書齋
幻住菴記



昨昨群山民々々

展教之足印投也

争之の乱を打つ所ス

中々く心まらざる所ハ

谷地清まらぬ所

物々しくおぼるを飽て

一知れぬ所の事

もつてしうしを衆人

共々しうしを衆人

行りておぼるを衆人

もれ一知れぬ所の事

ておぼるを衆人

いふ事くらくさく公

つうしうしを衆人

加え甲斐の事

蔵子あつておぼる

よのちのわが事

をある人々

いふ事くらくさく公

いふ事くらくさく公

いふ事くらくさく公

いふ事くらくさく公

いふ事くらくさく公

いふ事くらくさく公

夢の夢を計枕の上
柱と掛しつゝ夢を移し
さしぬるもくよを動
ありていふかきむらさき
ねのこゝろをまうくあつ
ね橋のこゝろ一兔のま
とまよふなをこゝろ
とら農はは疑ふの
つらうれを移し
月を移しぬるもくよを
ねを移しぬるもくよを
よを移しぬるもくよを

とら農はは疑ふの
つらうれを移し
月を移しぬるもくよを
ねを移しぬるもくよを
よを移しぬるもくよを
とら農はは疑ふの
つらうれを移し
月を移しぬるもくよを
ねを移しぬるもくよを
よを移しぬるもくよを

とらに情を寄
暫くは瀝れえうら
まなれをぬまふ
みりあしうけ
よつこふ家樂を
五腕の神を
癒す中賢るふ
此のしうら
いつれ、
かちおもひ
か

えぬれき

稚のよも

え福と仲秋日

芝草志自書



幻修庵の地邊に於て
清海と名づくるもの付物
とありてある。一、
後宮にて持たしむる也
る中、新張の調一、
存底、徳の少なきも、
能くおのれをさす會成に
心よりこれに情をこめて
とありて、一、海門の
人、とありて、
七、新張の、
た、とありて、
ありて、
か、とありて、
とありて、

心、とありて、
西、とありて、
とありて、
とありて、
とありて、
とありて、

乙時美史元年初冬

五部 長社庵抄



